

会

報

社団法人 日本病理学会
〒113-0033
東京都文京区本郷2-40-9
ニュー赤門ビル4F
TEL: 03-5684-6886
FAX: 03-5684-6936
E-mail jsp-admin@umin.ac.jp
http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第268号

平成22年(2010年)5月刊

1. 役員一覧(平成22年4月現在)

理事および監事(任期:平成24年3月31日まで)

理事長	青笹 克之
副理事長	向井 清
副理事長	寺田 信行
常任理事	上田真喜子
常任理事	佐藤 昇志
常任理事	深山 正久
理事	橋本 洋
理事	覚道 健一
理事	加藤 良平
理事	黒田 誠
理事	松原 修
理事	本山 悌一
理事	根本 則道
理事	岡田 保典
理事	笹野 公伸
理事	白石 泰三
理事	山口 朗
理事	安井 弥
理事	吉野 正
監事	真鍋 俊明
監事	佐野 壽昭

2. 病理学会活動(平成22-23年度)における考え方と基本的方針

理事長 青笹 克之

私は日本病理学会理事長として、選挙の際に掲げた「病理学会の活性化」のために力を尽くす決意です。多くの病理学会員の方々より寄せられた建設的な提言を参考にし、今後の学会活動につき私の考えを述べさせていただきます。社団法人日本病理学会定款にある学会の(目的)には「この法人は病理学に関する学理及びその応用についての研究の振興とその普及を図り、もって学術の発展と人類の福祉に寄与する」とあり、研究の振興の重要性を謳っています。一方、近年の分子生物学の発展は目覚ましく、病理学研究もかつての器官病理学、組織病理学、細胞病理学に加えて分子病理学を包含するに至っています。現在では病気の原因、病態の究明を行う病理学研究はかつての「病理学教室」の研究者に加えて周辺分野の医師及びその他の

研究者の参入により大いに活況を呈していることは大変に喜ばしいことです。一方、このような状況の中で「病理学教室」所属の研究者の存在感は薄れ、あるいは曖昧となっています。

日本の「病理学教室」は欧米と比べてサイズが極めて小さく、「病気の研究」を行う場としての力量不足は歴然としているように思います。このような現状認識に基づき病理学会の学術研究活動を構想して行くことが重要と考えています。

1970年代より医療、特にがんの医療における病理診断の必要性が認識され、この分野に従事する病理医の増加は目をみはるものがあります。1990年代以降、病理診断の重要性、面白さに魅力を感じる若い医師の参入が大いに期待されてきましたが、現実には病理専門医の中における若手医師は減少し、高齢化が進行しつつあります。

このような事態を放置すると日本病理学会は病理学研究への寄与、医療としての病理診断の維持にその責を果たすことはますます困難となってくることは明らかです。若い医師の病理学への参入を増加させることが病理学会の活性化に重要かつ必須です。そのためには疾病の病理学的研究の魅力を高めることが必要と考えます。見体的な行動目標の主なものを示します。

1. 病理学研究の魅力を高めるための努力

病理学会として、病理学研究の魅力を推進する学術プログラム、プロジェクトを策定すべく、これを担う学術委員会を強化する。

病理診断関係のプログラムは維持、強化するが、乱立している面もあるため、これを整理し、更なる充実をはかる。このため学術委員会の再編、強化を行う。

2. 病理学会運営方法についての検討

病理学会の目的である「病理学に関する学理及びその応用についての研究の振興と普及」をめざす上で、司令塔としての理事会の役割は極めて重要です。そのため、理事の選任は病理学会の今後の方向性に決定的な影響を与えることとなります。この点を考慮した選任方法について検討していくことが必要と考えます。病理学会の目的に沿った理事の選出方法としてこれまでも検討されてきた代議員制度をふくめ、選挙制度の改革についての検討を開始しております。

3. 病理学教育の点検

病理学教育についての最近の議論は診断病理偏重の傾向

があるように感じられます。病態の形態的認識そのものの重要性は否定されるものではありませんが、病態形成の機序についての概説がなされなければならない。その中で病理学教室及び関連施設の研究者がどのような貢献をしているかを通じて、「病理学の魅力」を学生に伝えるべきと考えます。このような視点に基づいた教育委員会の活動が必要と考えます。

4. 病理学会学術集会の活性化について

- (1) 現在、病理学会総会及び支部学術活動に多くの会員の出席はあっても、学会活動への積極的な参加は減少しつつあるのではなからうか？

総会、支部会を診断技術の「【取得】の場」としてのみ考えている会員の増加を反映しているものと考え。病理学会関係の学術集会では、若い会員自らの発表する姿勢が求められます。

- (2) 関連分野の研究者との交流は病理学研究の活性化を図る上で重要です。このため例えば以下の方策についても検討する。
- 病理学会に所属していない研究者も共同演者として登録できるようにする。
 - 評議員の推薦により病理学会員でなくとも筆頭演者として発表できるようにする。あるいは学会発表のためだけの一時的な会員制度を創設する（正会員でなく、一回登録会員）。

5. 病理学会の理事会及び委員会活動について

理事は病理学会会員の投票によって選出される極めて重い立場にあり、学会活動の先頭に立って学会運営に責任を負うべきものである。しかし、現状では年3回の理事会出席以外に活動の場のない理事が存在している。このことは病理学会にとっての大いなる損失です。

このため、理事は全員が何らかの病理学会の委員会の責任者となること、及び各種委員会委員には全国の病理学会員の参加を広く求めることが病理学会の活性化のためにとりわけ必要と考えます。

6. 地方支部と全国の活動との連携

日本病理学会は全国の7支部より構成されている。支部は学会の基盤をなすことから、地方からの意見の集約、学術活動での地方と全国の有機的な連携が求められる。このため、学術委員会は支部活動との連携を通じて質の高い学術プログラムの策定を考えることが必要です。

7. 病理医の業務環境の改善について

病理専門医の大半が病院で病理診断に従事している。このため病理医の業務環境の改善は病理学会にとり、極めて重要な課題です。医療業務委員会を中心とした、この問題への取り組みは極めて重要であるため、これを継続強化して行きます。特に、一人病理医は多忙な業務、適切な診断を下さないとならないという緊張状態、そして剖検待機による時間的な拘束等、過酷な状態におかれている。一人病理医を解消し複数化することにより、魅力ある病理環境の確立をめざします。地域毎の病理医のネットワーク作りも一法である。

8. 女性病理医 / 病理学者の育成について

人材育成委員会の調査によると、日本病理学会員に占める女性病理医は30歳代で1/3、20歳代では約半数である。病理学会の活性化のためには女性病理医の育成が重要であることは自明です。女性医師はキャリアアップするうえで、結婚、子育て等で男性医師と比べて、不利な状況にあると云えるため、女性病理医の職場環境の改善が病理学会のマンパワーを高める上で、重要であると確信します。

3. 新名誉会員の推戴について

平成22年度における新名誉会員は、下記の27名が推戴された。(ABC順)

天野 殖	青木 幹雄	藤岡 保範	藤原 正之
箱崎 半道	花之内基夫	原田 孝之	橋詰 良夫
畑中 薫	池原 進	井上 清美	岩崎 宏
鎌田 義正	木村 雄二	桑原 紀之	前田昭太郎
水口 國雄	実藤 隼人	関根 一郎	下村 英明
杉浦 浩	田村 穰	角田 弘	植田 規史
上山 義人	渡邊 信	安原 正博	

4. 新学術評議員の決定について

平成22年度新学術評議員は、下記の32名に決定した。(ABC順)

青木 茂久	新井 恵史	藤田 茂樹	藤原 正親
古田 玲子	古屋 充子	廣瀬 善信	池田 博子
池田純一郎	稲村健太郎	蔭 世旭	桂 奏
河村 俊治	久保田佳奈子	倉田 厚	前田 初彦
松坂 賢一	森 清	西原 広史	野本 一博
大橋 寛嗣	小野寺正征	酒井 康裕	佐藤 永一
高田 理恵	高田 晋一	寺崎 泰弘	塚本 吉胤
和田 直樹	山岸晋一郎	山野 剛	吉田 功

5. 平成21年度学術奨励賞の授与について

平成22年4月28日の総会席上青笹克之理事長から、第11回(平成21年度)学術奨励賞受賞者 浅野直子(信州大学)、榎本 篤(名古屋大学)、池田博子(金沢大学)、三上修治(慶應義塾大学)、西原広史(北海道大学)、奥寺康司(横浜市立大学)、竹内賢吾(癌研究会癌研究所)の7名に賞状および記念品が授与された。

6. 会員の訃報

以下の方がご逝去されました。

山口 潤 学術評議員(平成22年5月7日ご逝去)

お知らせ

1. レーザ顕微鏡研究会第36回講演会について

日 時：2010年7月6日（火）
 会 場：理化学研究所（和光市）鈴木梅太郎記念ホール
 連絡先：東海大学医学部教育・研究支援センター
 細胞科学部門内 伊東丈夫
 TEL：0463-93-1121（内2581）
 FAX：0463-91-1370
 E-mail：jslm-conference@sml.me.se.osaka-u.ac.jp
<http://sml.me.es.osaka-u.ac.jp/jslm/>

2. 2010年度小児腫瘍症例検討会開催について

日 時：2010年9月3日（金）
 13時00分～17時30分（予定）
 場 所：大阪市立総合医療センター さくらホール
 問い合わせ先：〒266-0007 千葉県緑区辺田町975-1
 千葉県こども病院病理 堀江 弘
 TEL：043-292-2121
 E-mail：horie10074@cnc.jp

3. 日本小児病理研究会ならびに小児病理セミナーについて

(1) 第30回日本小児病理研究会

日 時：2010年9月4日（土）9時～15時（予定）
 場 所：大阪市立総合医療センター さくらホール
 演題申込み締め切り：2010年7月28日
 抄録送付先：

〒534-0021 大阪市都島区都島本通2-13-22
 大阪市立総合医療センター病理部 井上 健
 TEL：(06) 6929-1221（内6155）
 E-mail：m1657676@msic.med.osaka-cu.ac.jp

(2) 第7回小児病理セミナー「白血病とその類縁疾患」

日 時：2010年9月4日（土）16時～18時30分（予定）
 場 所：大阪市立総合医療センター さくらホール
 問い合わせ先：

〒534-0021 大阪市都島区都島本通2-13-22
 大阪市立総合医療センター病理部 井上 健
 TEL：(06) 6929-1221（内6155）
 E-mail：m1657676@msic.med.osaka-cu.ac.jp

4. 第19回（平成22年度）木原記念財団学術賞候補者の推薦について

申込み締切り：平成22年9月30日
 連絡先：（財）木原記念横浜生命科学振興財団
 〒230-0045 横浜市鶴見区末広町1-6
 横浜バイオ産業センター2F
 TEL：045-502-4810 FAX：045-502-9810
 E-mail：Suzuki@kihara.or.jp

5. 第6回婦人科病理診断講習会について—婦人科病理診断の基本—

日 時：2010年10月30日（土）
 会 場：東京慈恵会医科大学大学1号館5階講堂
 内 容：講義形式（顕微鏡実習はありません）
 申込み先：埼玉医科大学国際医療センター病理診断科
 安田 政実
 E-mail：m_yasuda@saitama-med.ac.jp

6. 第30回医療情報学連合大会について

会 期：2010年11月19日～11月21日
 会 場：アクトシティ浜松
 連絡先：放射線医学総合研究所重粒子医科学センター
 病院医療情報課
 TEL：043-206-4630
 E-mail：jcmi2010@e-rad.jp